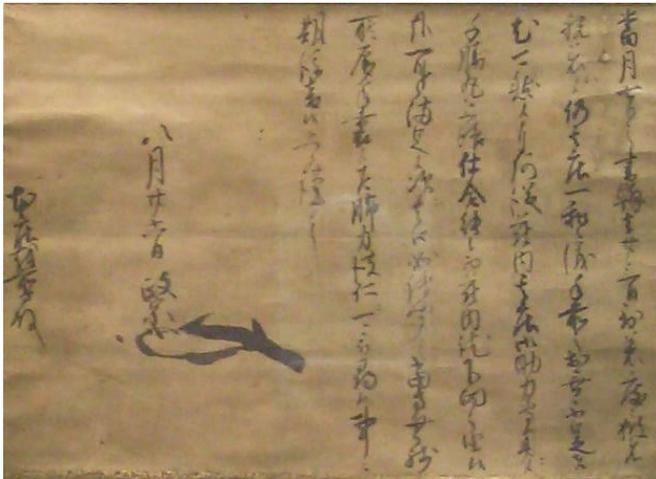


伊達政宗書状

伊達政宗から本庄繁長に宛てたもので、大意は、庄内武藤氏と山形最上氏の争乱に対して、山形城主最上義光の勢力が増大することを嫌った米沢城主伊達政宗が、本庄繁長に庄内地方の争いの調停を要請したものです。

共に庄内進出を企てる上杉と最上、最上の勢力拡大を阻止したい伊達、庄内を巡る三者の思惑が浮かび上がってくる書状です。やがて、繁長と政宗、慶長5年10月、福島城の攻防戦で合いまみえることになります。



兜 六十二間星兜（ほしかぶと） （別名 本庄兜）

村上の戦国時代の武将本庄繁長着用の兜で、銘に「上州明珍（みょうちん）」とあります。この兜の鉢金（はちがね）正面右寄りに刀傷が残っています。この傷は、本庄繁長が庄内十五里ヶ原の合戦で、敵方の武将東禅寺右馬頭（うまのかみ）から受けたものです

この繁長、先の庄内制覇や福島城での伊達政宗との戦い、関ヶ原の戦後の徳川家康への釈明の使者など重要な役割を果たしながら、なぜか大河ドラマでは、忘れられた存在であったことが惜しまれます。



内藤信成（のぶなり）肖像画

徳川政権下のもと、村上藩主は、村上氏～堀氏～本多氏～松平氏～榊原氏～本多氏～松平氏～間部氏と頻繁に藩主が代わり、享保5年(1720)に内藤弑信（かずのぶ）が難波河内から移封します。その後明治維新まで内藤氏の治世が続きます。この村上内藤氏の藩祖が信成で、徳川家康の異母弟にあたります。13歳のとき家康(当時松平元信)に会見し、その一字を与えられ「信成」となり、家康の側近として仕えるようになりました。



六十間筋兜（すじかぶと）と頬当

村上内藤氏祖信成着用の兜と伝えられています。また頬当（ほほあて）（面頬（めんぼう））は、信成が家康から拝領したものと伝えられています。

信成については、天正 18 年(1590)の小田原の役に参陣した際、豊臣秀吉がその「武備を感じ」目通りを許したといひます。

慶長 11 年近江長浜城主となり、同 17 年長浜城で没します。その後、2 代信正・3 代信照は大坂城代を歴任、4 代信良は奥州棚倉藩主となり、5 代弍信（かずのぶ）が村上藩主となります。



太 刀 銘 定 利

村上藩主内藤家に伝えられた刀剣で、刃長は2尺2寸3分(67.3 cm)、銘は定利(さだとし)とあります。銘にある「定利」は、鎌倉時代の刀工で、山城国京綾小路に在住したことから綾小路(あやのこうじ)定利と称せられています。

元は太刀(たち)造り(刃を下にして吊るす)であったものを磨(す)り上げて短くして、刃を上にして腰に差すようになりました。

財団法人日本美術刀剣保存協会による鑑定では「重要刀剣」の指定を受けています。



太 刀 銘 忠 吉（二字銘）

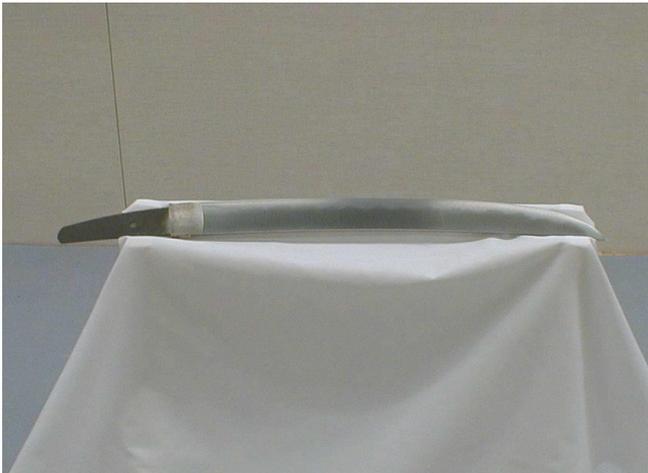
旧村上藩士伝来の刀剣で、刃長は2尺2寸(66.7 cm)、銘は「忠吉」、裏には、年紀銘「慶長十二年八月吉日」とあります。忠吉は肥前佐賀藩の刀工で、初代忠吉は肥前刀の祖として有名な人物です。初代忠吉には、銘を「肥前国忠吉」と五字銘に切るものなどありますが、「忠吉」と二字銘を切る例は稀で、その中でも年紀銘のあるすこぶる稀少なものとされています。



脇 差 銘 正 家

旧村上藩士伝来の刀剣で、刃長は1尺3寸(39.4 cm)、銘は「正家」とあり、これは初代正家が備後国三原(現在の広島県尾道の一部)に住んでいたことから、備後三原派と称されるようになったものです。

作刀された時代によって、古三原・中三原・末三原に分類され国の重要文化財に指定されているものもあります。本脇差は、鑑定書にもあるように「末三原」に属し、室町時代後期の作とされています。



短 刀 銘 兼 元

旧村上藩で代々家老職を務めた家に伝来されていたもので、女性の懐剣でした。銘は「兼元」とあります。初代兼元は美濃国(現在の岐阜県)の刀工で、俗に関の孫六と呼ばれていますが、2代目以降も代々孫六兼元を継承しています。

この短刀は、刀身もさりながら、拵(こしらえ)(刀装具)も、かなり立派につくられており、家老職を務めていた家にふさわしいもののように感じられます。

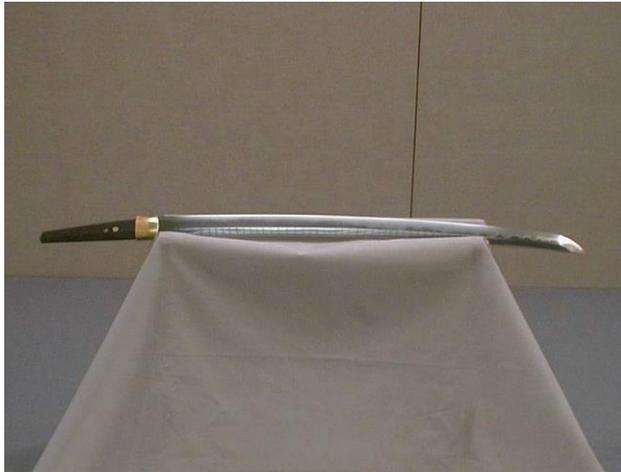


脇 差 銘 出雲守法橋源光平

刃長は1尺9寸(57.6 cm)で、大脇差と呼ばれているものです。銘は八字銘で「出雲守法橋源光平（いずもかみほつきょうみなもとのみつひら）」とあり、銘に菊の紋が切っています。

日置光平（へきみつひら）は、京を経て江戸に移住し出羽守を受領した、江戸石堂派を代表する刀工です。

光平の制作した刀は、その年代から新刀(天正1～慶応3年までに制作された刀)といわれますが、その中では、上作にして良業物（わざもの）であったとされています。



太 刀 銘 折返銘 村 正

刃長は2尺1寸6分(65.5 cm)。折返（おりかえし）銘とは、刀身を短くするために銘が失われることがあったので、銘の部分を反対側に折り曲げて銘を保存したものをいいます。

刀工は切られた銘により「村正」と思われますが、徳川家に仇なす妖刀伝説のある刀としても有名です。別称を千子（せんご）村正といい、村正の銘は伊勢桑名の地で代々受け継がれ、江戸時代初期まで続きました。合併により、旧山北町から当館に移管されたものです。

